14ポイント　→　令和 年 月

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究科委員会審査年月を記入）

本記載例に従い作成し、その他は学位申請書と同様の設定とすること

○○○○　学位論文審査要旨←24ポイント

　　　　　　↑氏名を記入

主　査　　○　○　○　○　←　14ポイント

副主査　　○　○　○　○

同　　　○　○　○　○

以下指定箇所以外は12ポイント、アルファベットと数字は半角とする。

主論文　↓論文題目が英語の場合、文頭・固有名詞は大文字、その他は小文字とする

Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive techniques in rabbits exposed to head-down tilt　　↓論文題目が英語の場合は日本語訳文を付すこと

（ヘッドダウンテルト負荷ウサギにおける侵襲的ならびに非侵襲的な眼圧測定）

（著者：鳥取一郎、東京薫、岡三郎、鳥取次郎、鳥取三郎、鳥取肆朗、鳥取晤郎、

　　　　鳥取六郎）←著者名は氏名の途中で改行しないこと

平成22年　Japanese Journal of Physiology　掲載予定

↑まだ発行されていない場合は「掲載予定」とすること

参考論文（掲載年月の古い順に配列。）

1. Acute hemodynamic effects of bunazosin in congestive heart failure-differing responses according to degree of cardiac dysfunction

 （うっ血性心不全患者におけるブナゾシンの急性効果－心機能別の反応）

 （著者：鳥取一郎、東京太郎、鈴木三郎）

 平成18年　General Pharmacology　24巻　200頁～210頁

2. 核上性舌下神経麻痺およびAvellis症候群を呈した延髄小梗塞の1例－下の核上性支配について考察－

 （著者：鳥取一郎、大山花子、佐藤○子、田中○郎、○原○雄）

 平成19年　臨床内科学　36巻　692頁～695頁

↑発行済の場合は巻数・頁数を記載すること（発行月・号数は不要）

↓フッター中央にページ番号をつけること

学　位　論　文　要　旨←18ポイント

（主論文名はゴシック）

Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive techniques in rabbits exposed to head-down tilt

（ヘッドダウンテルト負荷ウサギにおける侵襲的ならびに非侵襲的な眼圧測定）

（論文題目及び「方法・結果・考察・結論」の文字を除き2,000字以内（スペース除く）、2頁以内）

　微小重力環境下におかれた生体では、体液の頭方移動が生じることが知られている。こうした体液移動の結果、宇宙飛行士の眼圧（IOP）が上昇することが報告されているが、その時間経過や発生機序に関する詳細な検討はなされていない。・・・・・・・・・

（方法、結果等の項目はゴシックで文字の間に次のとおりスペースを入れる。）

方　法←ゴシック

　実験には体重2.3～3.2 ㎏の白色家兎を用いた。ペントバルビタールによりウサギを麻酔し、非動化して人工呼吸下に実験を行った。眼圧の測定は、2つの方法を用いて行った。侵襲的方法では、25ゲージ針を左前眼房に刺入し、・・・・・・・・・・

結　果←ゴシック

　リザーバーの高さを変えると、圧トランスジューサーにより測定した眼圧（IOPNEEDLE）は素早く応答し、1分以内に一定値に達し、その後5分間は変動しなかった。IOPNEEDLEは、リザーバーの高さから予測される値と極めて近い圧を示した。・・・・・・・・・・

考　察←ゴシック

　圧トランスジューサを用いた侵襲的眼圧測定は、ウサギの眼圧を正確に測定し得ることが判明した。また、トノペンを用いて非侵襲的にウサギ眼圧の測定を行った場合、絶対値を知るには校正が必要であるが、・・・・・・・・・・

結　論←ゴシック

　針刺入による侵襲的方法ならびにトノペンによる非侵襲的方法の両者は、ウサギの眼圧測定に用い得ることが示された。ウサギにおける45度HDT負荷は、微小重力が眼圧に及ぼす影響を調べ、その対策を講じる上で有用な実験モデルになると期待される。

参　考　論　文　要　旨←18ポイント

（参考論文名はゴシック）

1. Acute hemodynamic effects of bunazosin in congestive heart failure

 -differing responses according to degree of cardiac dysfunction

（うっ血性心不全患者におけるブナゾシンの急性効果－心機能別の反応）

（論文題目を除き1篇につき200字以内（スペース除く））

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

2. 核上性舌下神経麻痺およびAvellis症候群を呈した延髄小梗塞の1例－下の核上性支

 配について考察－

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

審　査　結　果　の　要　旨←18ポイント

（400字以内（スペース除く））

　本研究は白色家兎を用いて、ヘッドダウンティルト（HDT）負荷による模擬微小重力実験モデルの開発を行い、HDT負荷の眼圧に及ぼす影響を圧トランスジューサーを用いた針刺入による侵襲的な眼圧測定法と手持ち眼圧計（トノペン）による非侵襲的な眼圧測定法で検討したものである。その結果、各種の負荷条件下で、後者は前者に比べて低い測定値ないし変化量を示すものの、両者間に良好な相関関係が認められ、白色家兎の眼圧測定に際して、トノペンを用いた場合にも定量的に信頼のおけるデータが得られることが判明した。本論文の内容は、宇宙環境を含めた眼生理学の分野で、トノペンによる非侵襲的な眼眼圧測定の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。

最終試験の結果の要旨←18ポイント

（字数制限なし）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（課程修了の場合の例）

　主査と副主査の3名が一室に会し、公開の状態で口頭試問により最終試験を行った。主論文ならびに参考論文に関する詳細な質問のほか、主査は正常眼圧緑内障診断のポイントについて、副主査の一人は急性緑内障の眼循環と視機能について、他の副主査は視細胞の光応答性過分極電位のロドプシンの関与について質問したが、おおむね正確にして満足すべき回答を得、独立して研究するに充分な能力と学識を持つことを確認した。

　また、各科目最終試験の結果は次のとおりである。

　　　　主科目1　　病態情報内科学特論　　←（成績は教務係で記入します。）

　　　　　　　　　 病態情報内科学演習　　　（科目名のみ記入してください。）

　　　　主科目2　　適応生理学特論

　　　　　　　　　 適応生理学演習

　　　　副科目　　 生殖機能医学特論

　　　　　　　　　 生殖機能医学演習

　　　　選択科目　 医療情報学特論

　　　　　　　　　 医療情報学演習

学力確認の結果の要旨←18ポイント

 （論文提出によるものの場合の例）

　主査と副主査の3名が一室に会し、公開の状態で口頭試問を行った。主論文ならびに参考論文に関する詳細な質問のほか、主査は周生期ウイルス感染症について、副主査の一人は成人との比較における小児体内薬物動態の特徴について、他の副主査は生後1か月以内で致命的となる先天性心疾患について質問したが、おおむね正確にして満足すべき回答を得、その学力は本学大学院博士課程において所定の単位を修得したものと同等以上であり、独立した研究者としての能力と学識とを有することを確認した。

　外国語については筆答試験を行い、以下の結果を得た。

　　　　英　　語　　　　　　←（成績は教務係で記入します。）

履　歴　書←18ポイント

本　籍　　　鳥取県　　←都道府県名まで（外国籍の場合は国籍）

現住所　　　鳥取県鳥取市東町1丁目2番地

生年月日　　昭和40年4月1日　←外国籍の場合は西暦で記載（学歴、職歴等も）

性　別　　　男

↓14ポイント

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名

外国人の学生で漢字氏名表記でない場合はアルファベットで記載。また、ふりがなは母国語読み↑

学　歴　　↓学歴・職歴の年月日が不確かな場合は確認すること

　平成 9年 4月 1日　　鳥取大学医学部医学科入学

　平成15年 3月20日　　同上卒業

　平成15年 4月30日　　医籍登録第○○○○号

　平成17年 4月 1日　　鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程入学

　平成18年 4月 1日　　同上休学　←在学中に休学歴があれば、休学日及び復学日を記載

　平成19年 4月 1日　　同上復学

　平成22年 3月31日　　同上修了見込

大学院設置基準第14条による履修期間←社会人大学院生としての履修期間を記載(休学期間除く)

　平成17年 4月 1日～平成18年 3月31日

　平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日（予定）←修了まで勤務する場合に記入

　（＊一般のみの場合は、この欄に「なし」と記入する。）

職　歴←原則として、職名の後ろに括弧書きで所属を記載

　平成15年 5月 1日　　鳥取大学医学部附属病院研修医に採用

　平成17年 3月30日　　同上退職

　平成17年 4月 1日　　○○病院医師（内科）に採用

　平成19年 9月30日　　同上退職

　平成19年10月 1日　　鳥取大学医学部附属病院医員（第一内科診療科群）に採用

　　　　　　　　　　　現在に至る